

2011年度

科目名	哲学				
担当教員	池田 清				
配当	薬学1		コード	42005	
開期	前期	講時	木曜日2限	単位数	2
授業テーマ	写真 映画 ト라우マ 欲望 そして無意識				
目的と概要	街にあふれるポスターを見たり、ドラマや映画を観るとき、何が起きているのでしょうか。例えば、新しい商品を欲しくなったり、登場人物に同情して泣いたり、怒ったりします。つまり、メーカーが買って欲しいものや、監督が泣いたり怒ったりして欲しいことに、われわれは反応してしまいます。私の「～したい」という欲望は、私以外の他者の欲望によって自由に操られているということです。私の欲望と他者の欲望はどういう関係にあるのか、これを知ることが授業の概要であり、目標です。				
成績評価法	出席(50%)、本試験(50%)から総合的に評価します。				
テキスト	テキストは使用しません。講義ノート中心です。				
参考書	授業中、その都度指示します。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	哲学は、楽しいのです。				
講義計画					
◎ 哲学は、訳の分からない難しいへ理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やろ?」、「何でなんやろ?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一歩足を踏み入れているのです。 われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。何で、ドラマを観て、泣いてしまうのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしながら、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。 その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。					
I 物を見ることの複雑性 1 物の同定と物による行動への強迫 2 精神分析的見解 3 現象学的見解 4 自己認識とそのほつれ					
II 写真を見る／見せられる私 5 バルトの写真論その1 6 バルトの写真論その2 7 ソシュールの言語論 8 ラカンのシニフィアン論 9 写真・言語・無意識の交錯					
III 映画を観る／魅せられる私 1 0 映画の物語世界の構成 1 1 メッツの映画論その1 1 2 メッツの映画論その2 1 3 ラカンの自我論 1 4 試験対策 1 5 まとめ					